

I. 導入

おはようございます。クリスチャンの信仰は、イエスがすべてです。イエスは、十字架上の死によって私たちに救いをもたらすために天から来てくださった神であります。神は私たちのことをどれくらい愛してくださっているのでしょうか。それはこれくらいです。十字架は、神の究極の愛情表現です。私たちがイエスを信じ、主であり救い主としてこのお方を受け入れるなら、私たちは罪を赦され、永遠の命という無償の賜物をいただきます。これはひとえに、私たちが命を得るためにイエスが十字架上で死んでくださった際、惜しみなく与えられた神の愛と恵みあわれみのおかげです。



救いは、無償の賜物です。パウロはエフェソ 2:8 でこのように宣言しています。「**事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。**」これこそ福音です。すばらしい祝福の良き知らせです。私たちはこれを心に刻まなければなりません。救いは単純明快です。神がそうなされたのです。それは、神がすべての人を愛してくださっているからです。そして、私たちが人々のために祈るように神が願われるのも、同じ理由です。テモテ第一 2:3-4 にはこうあります。「**2:3 これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。 2:4 神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。**」良き知らせです。愛と祝福のすばらしい福音です。

けれども私たちは、神の愛があれば深刻な問題が起こらず、いつも快適な生活ができるかのように、福音を誤解してしまうことがあるのではないのでしょうか。聖書はこのようには言っていません。それはイエスの教えられたことではありません。ヨハネ 16:33b で、イエスは弟子たちにこう話されました。「**あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。**」苦難…あまり良くない響きの言葉です。しかし、神はこの世の苦難を用いて、多くの人々を信仰と救いへと導いてくださいます。また、みことばが語るとおり、イエスはすでに世に勝っているのです。ですから、苦難に見舞われても、不安になってうろたえる必要はありません。というのも、究極の勝利はすでに私たちの主が勝ち取ってくださっているからです。キリストにあって、私たちにも勝利があります。この真理が私たちを希望で満たしてくれます。

使徒 7 章で、ステファノの石打ちについて読みました。石打ちにあって死ぬことは、一見、悪い知らせです。しかしそこには、天が開けて、神の右に立ってステファノを天に迎えておられる主イエスの姿をステファノが見たとも書いてあります。これは、ステファノにとって永遠の祝福の良き知らせだったでしょう。そして、今日の聖書個所で、ステファノの石打ちによって、福音が新たな場所へ広まっていったことがわかります。これは、神がこの世の苦難を用いて、さらに多くの人々を救いに導いてくださることを明確に示した例です。



では、使徒 8:1-13 を読みましょう。これは、7章のステファノの死の直後のできごとです。

II. 聖書朗読 使徒言行録 8:1-13, (新共同訳)

8:1 サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。 8:1 その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。 8:2 しかし、信仰深い人々がステファノを葬り、彼のことを思って大変悲しんだ。 8:3 一方、サ

ウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。8:4 さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた。8:5 フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。8:6 群衆は、フィリポの行うしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。8:7 実際、汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患者や足の不自由な人もいやしてもらった。8:8 町の人々は大変喜んだ。8:9 ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。8:10 それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、「この人こそ偉大なものといわれる神の力だ」と言って注目していた。8:11 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。8:12 しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼を受けた。8:13 シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。

III. 教え

使徒 8:1にはこうあります。「サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。」サウロの名が登場したのはこれが二度目です。使徒 7:58 で、証人たちが着物をサウロという若者の足もとに置いた、とありました。この絵では、背景にサウロが他の人たちの着物のそばに座っているのが見えます。ステファノは殉教しましたが、天に迎え入れられ、敬意をもって葬られました。**(使徒 8:2)**「しかし、信仰深い人々がステファノを葬り、彼のことを思って大変悲しんだ。」これは教会にとって悲しいできごとでしたが、状況はさらに悪化します。石打ちは明らかに違法でしたが、ローマ帝国の役人たちは何ら対処しませんでした。これが、教会に敵対する者たちを助長させてしまいました。



聖書はこう語ります。**(使徒 8:1b)**「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。」この時点まで、使徒たちをはじめ弟子たちは、イエスとその復活をエルサレムで宣べ伝えていました。しかし、主は、**使徒 1:8b**で彼らにこう語っておられました。「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」今まさに、エルサレムを離れた場所に福音が広まる時が来たのです。



そして、神のご計画のうちに、ステファノの死から始まった迫害をとおして、これが成就しました。なぜ迫害をとおしてでなければならなかったのか、と思うのでしょうか。もっと簡単な方法があったのではないかと。しかし、神のみが全体像を見通すことのできるお方です。もしかすると、迫害があったほうが弟子たちのメッセージの説得力が生まれるからかもしれません。快適に暮らしているクリスチャンが主イエスのすばらしさを証しても、その動機を必ず疑われるでしょう。けれども、迫害を受けながら大胆に福音を宣べ伝えるなら、そのメッセージが心からのものであることは、疑い深い人にさえ伝わるでしょう。そのような状況でキリストを宣べ伝えたとしても、世俗的な利益はないからです。

迫害の中で宣べ伝えられた福音が効果を発揮する現象は、現代でも多くの国々で見られます。苦難の中でイエスを大胆に宣べ伝える人は、イエスの証人として大きな効力があります。迫害を受けつつも、平安と喜びを持っている人もいます。またユーモアの心まである人もいます。1948年にソビエト連邦がルーマニアを占領した後、イエスを伝道したことで投獄されたルーマニア人のリチャード・ウオムブランツ牧師の言葉を見てみましょう。これは、共産国の牢獄暮らしについてリチャード師が語った言葉です：

「他の受刑者に伝道するのは厳しく禁じられていました。伝道しているのが見つかったら、容赦なく殴られました。私たちの多くは、福音を宣べ伝える特権に伴う犠牲を払おうと決心し、彼らの規則を受け入れました。私たちが伝道すると、彼らは私たちが殴る、という日常です。私たちは伝道できて満足し、彼らは私たちが殴って満足する…だからみんな満足だったわけです。」

私たちはどうでしょう。そのような状況で大胆にイエスを宣べ伝えるでしょうか。そんな中で、喜びを感じたり、冗談を言う余裕があるでしょうか。イエスの御名を語るという理由で日常的に暴力を受けたりしたら、信仰を持ち続けるのは難しいだろうと思うかもしれません。しかし、教会の歴史を見てみると、迫害のあるところには教会の繁栄もあることがわかります。反対に、教会が何の問題もなく楽にしていると、多くの兄弟姉妹が交わりから脱落していきます。こういうわけで、困難を喜ぶべきなのです。ヤコブは**ヤコブ 1:2-3** でこのように語っています。「**1:2 わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。 1:3 信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。**」

困難、つらい試練、迫害に遭っても、くじける必要はありません。私たちがしっかりイエスに目を向けているなら、試練や困難は信仰の成長を遂げるチャンスだと捉えることができます。そういうときに、ともなるキリストの臨在という祝福を経験することができます。イエスはいつも私たちとともにいてくださいますが、私たちはいつもに増して苦しいときに主の御顔を求め、主のご臨在を感じるものです。主のご臨在に励まされ、私たちは耐え忍ぶことができます。また、どんな試練や困難にも、恵みがあります。その恵みとは、多くの場合、福音を語り、イエスの愛を他の人たちと分かち合う機会です。

今日の聖書箇所は、教会にとって大きな悲しみの時です。**使徒 8:3** にはこうあります。「**一方、サウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。**」迫害が激化していったときであり、多くの信徒たちが理由もなく投獄されたり、それ以上にひどい目に遭わされたりしました。イエスに従ったという理由のみで投獄されたのです。しかし、神はこのような迫害の時さえも用いて益をもたらしてくださいます。この聖書箇所の場合、皆さんご存知の通り、9章で迫害者サウロがイエスと出会い、使徒パウロとして生まれ変わりました。彼は、偉大な伝道者となり、聖書にある多くの書簡の著者です。

しかし、今日の聖書箇所の中でもすでに、迫害についての記述の後、次の節はこう語ります。**(使徒 8:4)**「さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた。」当初、これはユダヤとサマリアのできごとでした。しかし、まもなくイエスの福音のメッセージは多くの地へと広まっていきました。迫害の悪い知らせが主によって用いられ、エルサレムから遠くはなれた場所にイエスの良き知らせを運んだのです。主はすべてを贖ってくださるお方です。そして、祝福をもたらし、主の御国の拡大のために用いてくださいます。

使徒 8 章の後半は、フィリポの働きについての記述です。ステファノと同様、フィリポは使徒 6:5 で指名された 7 人の執事の一人でした。フィリポの働きは、迫害が始まった後どのように神の御国が広まったかを伝えた一例です。**使徒 8:5-6**「**8:5 フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。 8:6 群衆は、フィリポの行うしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。**」フィリポは、サマリアに行って福音を宣べ伝えました。ユダヤ人の多くはサマリア人に対して偏見を持っていました。ですから、フィリポがこの町を働き場として選んだのは注目すべきことです。

ステファノと同じように、フィリポも多くの奇跡を行いました。悪霊を追い出したり、病気の人や体の不自由な人を癒したりもしました。フィリポの話聞き、彼の行う奇跡を見て、たくさんの人々が信仰を持ちました。大きな力を持った魔術師シモンとして知られた人も、フィリポを通して主がなさる奇跡に驚きました。**使徒 8:13** にはこうあります。「**シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。**」来週

の聖書箇所、シモンの心の中にはまだ問題があることがわかります。しかし、偉大な魔術師と言われた人でさえ、フィリポをとおして働く主の力を認めたことは明らかです。

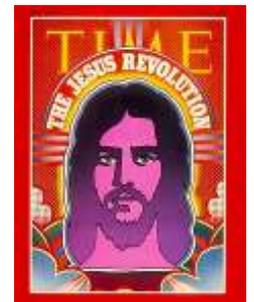
サマリア人は、長い間霊的な暗闇の中を生きていました。しかし、**使徒 8:12** でこのように書かれています。「しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼を受けた。」フィリポの言葉と行動による証が功を成し、エルサレム以外の場所で多くの人々が信徒となった史上初の収穫がもたらされました。

教会の歴史の中では、短期間の間に大勢の人が信仰に導かれたというできごとが何度もあります。ですから、日本でも神の偉大な働きを見る日が来るかもしれないという希望を持てます。使徒言行録の学びの中で、これまでに見たエルサレム、そして今日見たサマリアでそのようなことが起こりました。非常に短い期間の間に、フィリポのメッセージと働きをとおして、大勢のサマリア人が信仰を持ち、洗礼を受けました。

たくさんの方がキリストを信じる動きは今でも起こっています。私の記憶にあるのは、1960年代後半から1970年代にかけてのジーザス・ムーブメントです。今私たちが慣れ親しんでいる現代風の礼拝賛美音楽は、このムーブメントがルーツです。このムーブメントはカリフォルニアのヒッピーの間で始まり、アメリカ全土、そしてヨーロッパへと広がっていきました。ヒッピーと呼ばれる若者たちは、特にベトナム戦争がきっかけで、アメリカ文化に幻滅し、典型的なアメリカ人のライフスタイルを捨てた人々です。けれども、薬物と奔放な愛の毎日も満たされないものだという事にまもなく気づきました。そしてたどり着いたのが、生ける主であるイエスとの絆のうちに歩む、充足感と意義ある人生でした。



タイム誌は、アメリカ合衆国でもっとも影響力のあるニュース雑誌のひとつです。1971年6月21日号のタイム誌をご覧になったら、このような表紙にびっくりされたかもしれません。表紙には、サイケデリックなイエスの絵と「ジーザス革命」という文字があります。ヒッピーの間に起こったジーザス・ムーブメントは、当時の全国メディアの注目を浴びるほどのものでした。既存の教会は、大勢のヒッピー・クリスチャンをどう扱ってよいのかわかりませんでした。しかし世間は、ジーザス・フリークと呼ばれる人々をもはや無視できなくなり、ニュース誌に取り上げられるまでになったわけです。



ほとんどの既存の教会は、ヒッピー・クリスチャンをどう扱ってよいかわかりませんでした。しかし、いくつかの教会はこのような熱心な若者の信徒たちを受け入れ、彼らのために教会の扉を大きく開きました。ジーザス・フリークたちを歓迎した最初の教会のひとつが、カルバリチャペル・コスタメサです。1965年、チャック・スミス牧師がカルバリチャペルの牧師として就任したとき、たった25名の教会でした。しかし、チャック牧師の娘がヒッピー・クリスチャンのボーイフレンドを家族に紹介し、教会に歓迎されたのがきっかけとなり、数年のうちに教会は爆発的に人数が増えました。そして、ジーザス・ムーブメントの中心地となりました。

ロサンゼルス・タイムズ紙は、1973年5月6日に行われたカルバリチャペルの海辺の洗礼式の写真を掲載しました。そこでは、多くの若者たちが洗礼を受けました。これは、昔外国で起こった遠い話だと思いませんか。けれども、案外身近な話なのです。私は1988年のイースター聖日に、カルバリチャペル・オーシャンサイドのラルフ・ウッド師によって洗礼を受けました。そのラルフ師は、1973年に信仰を持ち、カルバリチャペル・コスタメサに通っていました。ですから、確かではありませんが、もしかすると私に洗礼を授けてくれた牧師が、この写真の中で洗礼を受けている人のひとりである可



能性があるのです。

カルバリチャペル・ムーブメントは、ヒッピーの間に起こったジーザス・ムーブメントから始まりました。そして、短期間の間に大勢の人たちを信仰に導くという驚くべき主の御霊の御業が、あらゆる場所で行われていることの一例です。これはもうひとつの例です。この写真は、モザンビークのペンバで一日に 800 人もの人が洗礼を受けたときの様子です。神は世界中のどこかで常に働いておられます。神の働きによって、教会開拓や宣教師派遣が始まることもあります。



IV. 結び

2000 年前、教会史の研究者には伝道者フィリポとして知られるフィリポの働きによって、イエスについていくという大きな動きがサマリアの人々の間に起こりました。40 年前、主はヒッピーの文化から生まれたジーザス・ムーブメントをとおして、驚くべき働きをしてくださいました。今日ある世界中の多くの教会が、このムーブメントをルーツとしています。

日本はどうでしょう。大阪はどうでしょう。この地でも、神の驚くべき動きが必要です。主が日本に、そして大阪に聖霊を注いでくださるよう、ともに祈りましょう。今年、私たちは、主の栄光のためにこの会堂をいっぱいにするために祈るという目標を掲げています。けれども、私たちの祈りはもっと大きくなくてはなりません。神が聖霊を注いでくださり、大阪中、そして日本中の教会にリバイバルを起こしてくださるよう祈りましょう。



V. 祈り

天の愛する父、いつくしみ深い主よ、

あなたは創造主なる神であり、すべてのものの主であられます。あなたの御名をたたえます。あなたの恵みあわれみを感謝します。主よ、私たちの生き方をもってあなたに栄光を帰することがなかなかできない私たちをお赦しください。私たちは多くの過ちを犯しています。私たちは罪人です。あなたを信じる者すべてに惜しみなく与えてくださる恵みあわれみが必要です。私たちを見捨てず、イエスの十字架をとおして救いを備えてくださり、ありがとうございます。あなたに心を開くことができるよう助けてください。

主よ、私たち一人ひとりが皆、イエスを信じ、十字架上で完成された御業を信じて救われますように。私たちだけでなく、家族や友人、近所の人たち、同僚や同級生のためにも祈ります。あなたの恵みと愛を注いでください。あなたの御霊をこの町に、この国に注いでください。主よ、この国で驚くべきムーブメントが起こりますようにと、今大胆に祈ります。あなたの聖霊を送ってください、主よ、そして、あなたの栄光をあらわしてください。この大阪で、そして日本中で、あなたの御国が来ますように。あなたのみこころがなされますように。私たちの祈りを聞いてくださりありがとうございます。イエスの御名によって、アーメン。